

今月は、<sup>ménting ruò shì</sup>門庭若市（メンティンルオシ）です。門庭は、中国語では門前、若市は‘市の如し’です。日本語では、その意味を取って、門前成市、門前市を成すという言葉を使っていますね。本の中のお話は、次のようなものです。



戦国時代、齊の国の宰相<sup>すうき</sup>鄒忌が、威王に進言しました：「私は元々、城西に住む徐公のように美男子ではありませんが、私の周りの人達は、皆、私の方が徐公より美男子だと言います。これは彼らが皆、私の方が徐公より便宜を図ってやることを期待して、私におべっかを使い、本当のことを言わないからなのです。私の周りですえ、こんな状態です。王様は権力者ですから、王さまを恐れ、良く思われたいとおべっかを使う人はもっともっと多いでしょう。王様がそういう人たちに騙されてはいけません。王様は、もっと多くの人達の忌憚のない意見を聴くべきです」

齊の威王はそれを聴いて尤もな意見だと思い、直ぐにお触れを出して、「齊王の過ちを指摘した者には褒美をとらせる」と知らせました。そのお触れが出ると、多くの人達が威王に諫言（目上の人に意見を言い、過ちを改めさせる）しようと集まって来て、朝廷の門前は、毎日、市場のように賑わいました。



言葉の意味は：門前や庭先が、市場のように賑やかである、人々との交流が盛んで訪ねて来る人がとても多い様子をいう。

使用例：毎年、中国芸術祭の開催期間中、国家博物館は毎日門前市を成す賑わいだ。



毎月、『名牌小学入学必备：成語（有名小学校入学準備必携：成語）』という本から、順番に四字成語の説明を紹介しているのですが、度々、これが幼児向けの本なのかと疑ってしまいます。しかし、この本の表紙にはちゃ

んと、『幼稚園教育指導要綱（試行）』および『小学課程標準』準拠と謳っています。

それにしても、幼い子供たちに見返りを期待しておべっかを使う人のことなど、どう教えるのでしょうか。教育の現場に立ち会ってみたい気がします。具体的にどういことかは説明しないで、ただ昔の人がこう言っています、とだけ教えるのでしょうか。

以前、中国では、物事を一面からだけ見て判断することとはしないで、必ず多面的に見て対処する人が多いと聞いたことがあります。民族的な傾向だそうです。そんな傾向が、小さい時から、このような話を聞くことで磨き

がかかるのでしょうか。

そういえば、「塞翁失馬」という四字成語があります。日本語でも「塞翁が馬」といいますね。良いことの後には悪いことが来るという視点から、「<sup>じんかん</sup>人間万事塞翁が馬」とか「禍福は<sup>あざな</sup>糾える縄の如し」とか、良いことと悪いことが交互に起こる可能性を強調していますが、中国では物事の二面性を強

調して、「次に何が起こるかは予測不可能」という意味にとるそうです。

清朝が崩壊して、中華民国が建国されたころ、日本に亡命していた仲の良い中国人兄弟の兄だけが帰国することになりました。弟の友人だった日本人が、「どうして一緒に帰国しないのか」と尋ねると、「中華民国が出来たといっても、未だどうなるか分かりません。今は兄だけが帰国して、祖国の建国を見守る方が良いのです。その間に、私は日本での足場をきちんと確立することができますから」と答えたそうです。

これが日本人だったら、仲が良ければ良い程、「一緒に帰国して二人そろって祖国の建設に協力しよう」という気持ちになるのではないのでしょうか。とかく日本人は、何か起こると、熱くなって突き進む性癖があるようです。その点、事態がどう転んでも困らないように準備がちゃんと出来る中国人は、やはり人生の達人ですね。

